



## 雪が無くても熱戦を展開！

雪合戦ひろしま 2020in 高野・2/1-2

No.1

第23回広島県雪合戦大会「雪合戦ひろしま2020in高野」が高野スポーツ広場で開催され、県内外から70チーム、選手や観客など合わせて約3,500人が来場しました。

本年は極端に積雪が少なく、雪球を作るための雪もない、大会史上初めての状況でした。実行委員会はグラウンドに人工芝を敷き、手作りの疑似球を準備して選手を迎えました。疑似球は雪球よりもスピードが出やすく、雪がない中でも激しい攻防が繰り広げられ、会場は大いに盛り上がりました。

また、会場内では第3回しょうばら鍋・1グランプリも開催され、多くの来場者でにぎわいました。



▲熱戦の様子



▲参加チームの旗に囲まれて選手宣誓



▲今年も鍋グランプリが大盛況

## 地域の宝を火災から守る

文化財防火訓練・1/26

No.3

口和町の多加意加美神社で、三次消防署口和出張所が地域住民と共に「文化財防火訓練」を実施し、約60人が参加しました。

当日は、地域住民のバケツリレーによる初期消火訓練や、消防署員による消火栓を使用した放水訓練が行われました。参加者は、「スムーズにバケツを渡すことは、想像以上に難しい」と話していました。訓練後には地元自治会が中心となり、炊き出しが行われました。

三次消防署口和出張所の山崎伸也所長は「今一度、文化財の愛護と防火について考えていただきたい」と呼びかけました。参加者は地域の文化財を守るため、防災に対する意識を高める一日となりました。



▲バケツリレーの様子

## みんなでそば打ちに挑戦！

そば打ち体験・2/5

No.2

西城町の八鳥集会所で美古登小学校の3、4年生16人がそば打ちを体験しました。

今回の体験は、地域の方と交流しながら自分たちが栽培したそばを食べることで、勤労意欲や食への関心を高めるとともに、地域への愛着を深めることを目的としています。

児童は、八鳥ふれあいサロンの参加者や地域の方に教わりながら、そば打ちに挑戦しました。最初は難しく、徐々にコツをつかみ、最後には見事なそばが出来上がりました。

昼食では、参加者全員で打ちたてのそばを食べました。児童は「そばを細く均等に切るのが難しかった。自分で作ったそばはおいしかった」と話していました。



▲そばのこね方を教わる児童



## 良い一年を願って

南地区のたつうち・2/9

No.8

高野町南地区で、高野町で古くから続く旧暦二十日正月の行事「たつうち」が行われました。

久しぶりに高野町一面が雪景色となったこの日、集会所近くの建物内に、南地区の皆さんが集まり、それぞれ持ち寄ったわらを使い、手作業で6メートル程の立派な龍を2体作り上げました。

その後、作り上げた龍を山ノ神社の木に取り付け、ことし一年の五穀豊穡を願いました。

参加者は、「たつうちは、長く受け継がれてきた伝統行事。これからも、地域のみみんなで守り続けていきたい」と話していました。



▲南地区の皆さんと龍

## 華やかに新年を迎える

雨水神楽・2/22

No.7

東城町の庄原市三楽荘で地域の安泰と発展を願う「雨水神楽」が開催され、国重要無形民俗文化財に指定される比婆荒神神楽が披露されました。

猿田彦の舞をはじめとする「七座神事」や、「八重垣の能」の演目が披露されたほか、大黒様による福餅まきなどが行われ、来場された地域住民や県内外の神楽ファン約60人は勇壮かつ華麗な神楽の舞いに酔いしれました。

また、広島大学留学生の神楽体験イベントが行われ、交流を深めていました。



▲「八重垣の能」大蛇を退治する須佐之男命

## 春を感じるとうろう菓子

総領小学校とうろう菓子作り体験・2/5

No.10

庄原市総領高齢者活動センターでとうろう菓子作りが行われ、総領小学校の3年生8人が参加しました。

とうろう菓子は花のない時期のひな祭りの花の代用品として、猫柳の枝に色とりどりの餅が飾られた装飾菓子です。とうろう菓子の風習は総領独特のもので、明治時代から伝わっています。

児童は稲草西自治会の皆さんの指導の下、ちょうちんや人形の型に入れて焼いた赤・黄・緑・白の餅に、ひもをつけて貼り合わせ、とうろう菓子を作りました。

参加した児童は、「餅がずれないようにぴったりと貼り合わせるのが難しかったけど、丁寧に教えてもらったので、きれいなとうろう菓子がたくさんできた」と喜んでいました。



▲紐の付け方を教わる児童

## 感謝の気持ちを込めて

比和小学校 ありがとう会・2/7

No.9

比和小学校で「ありがとう会」が開催され、比和小学校の活動に協力した地域の方などが招待されました。

「ありがとう会」は校外学習や比和っ子田での田植え・稲刈りの指導者や保護者など、児童をいつも温かく見守っている地域の方に対して、児童が感謝の気持ちを形にして伝える場として、毎年開催されています。

児童は招待した地域の方などに手書きのお礼状を渡し、5・6年生は、その場でたたき抹茶と菓子を振る舞いました。また、児童が自分たちで考えた学校に関するクイズを出題するなどして会場が盛り上がりました。

参加者は、うれしそうな表情を浮かべながら楽しい時間を過ごしていました。



▲振る舞われた抹茶と菓子を楽しむ地域の方

## 庄原パワーでめざせ日本一!

庄原市カーブ応援隊がカーブ日南キャンプ激励訪問・2/2

No.4

庄原市カーブ応援隊の一行が、広島東洋カーブのキャンプ地・宮崎県日南市天福球場を激励訪問しました。

応援隊を代表し、土井幹雄会長が佐々岡真司監督へ、今シーズンへの期待を込めて、庄原米や比婆牛などの特産品を贈呈しました。

佐々岡監督は、「たくさんの贈り物をありがとうございます。チームの活力に変えて頑張ります!」とあいさつをしました。

セ・リーグV奪還と悲願の日本一に向けて戦うカーブに、今年も大きな声援を届けましょう!



▲土井会長から佐々岡監督へ庄原の特産品を手渡した



▲天福球場を訪れた庄原市カーブ応援隊一行

## 地域の支え合いの力を再確認

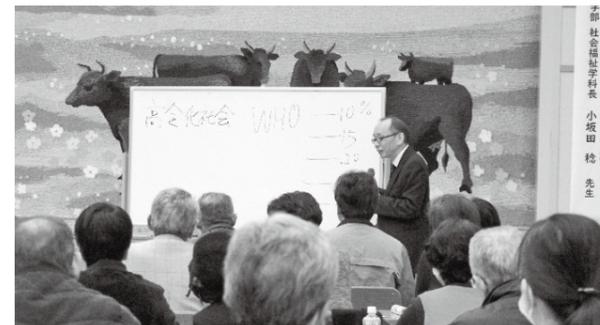
支え合いのまちづくり研修会・2/22

No.6

比和自治振興センターと庄原市ふれあいセンターで、「支え合いのまちづくり研修会」が開催されました。

美作大学生活科学部社会福祉学科長の小坂田稔さんが、認知症カフェや、地域一体で取り組んでいる見守り活動の話などの事例を交えながら、住民がそれぞれ役割を持ち、自分らしく活躍できる地域コミュニティについて説明しました。

研修会の中で小坂田さんは「社会的孤立をさせないこと」「人間関係や役割があることで、生きている意味を感じられる」といったメッセージを来場者に送り、来場者からは「近所で声掛けをしたい」「地域の皆に出番がある地域づくりに取り組みたい」という意見が出されました。



▲研修会の様子



▲お礼にカーブ球団から庄原市カーブ応援隊に贈られたスイーツ

## 名機が奏でるあの名曲

しょうばらレコードサウンズin楽笑座・1/26

No.5

楽笑座で楽笑座友の会が主催する、レコード演奏会が開催されました。

演奏会では、昭和の歌謡曲や洋楽のレコードを来場者と共に選曲し、会場で再生しました。あわせて、口和郷土資料館の安部博良館長が、曲名や年代、歌手などを解説しました。

来場者はアンプから流れる懐かしい曲を聴き、リラックスした状態で音楽を楽しんでいました。

また、持参したレコードのクリーニングや試聴も行われました。

来場者からは「迫力ある音で普段聴く音楽が違って聴こえた」「心に響くすばらしい音色だった」と感動の声が寄せられました。



▲曲の解説をする安部館長